

平成 27 年度

奥州市立病院・診療所改革プラン点検・評価調書

奥州市医療局

I 奥州市病院・診療所改革プラン主要課題にかかる取組状況と評価

項目	プラン内容	取組状況と内部評価	運営評価委員会による評価
市立有床診療所の外来及び在宅医療の推進 (プランP15)	市立医療施設の入院機能は総合水沢病院とまごころ病院の両市立病院が中心となって担うこととし、市立有床診療所は外来医療を基本としたかかりつけ医療施設として位置づけ、両市立病院からの診療応援体制の強化を図りながら、市民に必要な医療を安定的且つ継続的に提供していきける体制を築きます。 なお、医療の受け皿として需要増加が見込まれる在宅医療については、他の医療・介護施設との連携体制の強化や、巡回診療車等の活用を市医師会等と相談しながら提供体制の構築を図ります。	●平成26年度、有床診療所を外来機能を中心とした施設とする方針について、地域住民等からの反対意見が寄せられたことから、この対応については一時凍結として対応した。 ●平成26年8月から、前沢診療所が医師の不在により休止し、27年度末時点において有床診療所2施設のうち、1施設は休床、1施設は有床を継続した運営を行っている。 ●平成28年3月に改訂版として策定した改革プランにおいて、各市立診療所は地域における一次医療施設としての役割を担うと記した。 ●在宅医療の推進については、休所中の前沢診療所の訪問看護ステーションは継続して運営したほか、平成28年4月から、総合水沢病院内に訪問看護ステーションを設置すること目指し、準備作業を進めた。	●在宅医療の推進については、医療資源の有効活用、医師の負担軽減、地域医療構想・地域包括ケアの実現の観点から、他の医療機関、施設との役割分担、機能分化、連携構築を進めてほしい。 ●住民に対する医療機関の役割分担、適正受診等についての啓発が必要と思われる。 ●病院のみならず、診療所や巡回診療を含む奥州市の医療提供体制については、住民の理解を得つつ、市内全体の地域医療の確保の観点から、引き続きそのあり方について検討されたい。
市立医療施設の事業の統一 (プランP15)	市立医療施設の組織や会計を統一し、経済性と公共の福祉の増進を同時に求められる市立医療施設の経営の向上に取り組むと共に、責任体制の明確化を図ることが必要です。 このことから、平成27年4月を目標として、市立医療施設全体を地方公営企業法の全部適用で統括した(仮称)医療局を設置し、病院事業管理者と各市立医療施設長との合意に基づく一体的な運営を図りながら機能分担と連携強化を進めることで、医療の質と経営の質の両面において安定的な組織体制を構築します。 なお、各市立診療所は、全部適用により市立病院の附属施設として位置づけます。	●平成26年4月、複数の市立医療施設を組織統一している2市(宮城県栗原市、登米市)を視察した。 ●平成26年7月、健康福祉部健康増進課内に地域医療推進室を設け、市立医療施設のうち常勤職員がいる総合水沢病院、まごころ病院、前沢診療所、衣川診療所及び衣川歯科診療所の2病院3診療所を地方公営企業法の全部適用で統一した医療局の設置に向けた作業を開始した。 ●組織体制の整備、例規の改廃、財務システムの統一等を図り、平成27年4月に医療局を設置した。なお、診療所は病院の附属施設とはせず、2病院3診療所が対等となる形態での統一を図った。 ●なお、25年度で廃止予定としていた江刺区の5市立診療所は、市が継続して管理することとし、地元の民間病院に運営を委託した。平成29年度から、巡回診療車を導入して診療にあたる予定としている。 ●小児夜間診療所は、奥州金ヶ崎行政事務組合が開設する休日診療所と同一施設であることから、平成27年4月から同組合に移管をした。	●医療局設置により責任体制が明確化された点は評価するが、奥州市立の各医療機関がそれぞれの地域の状況に応じて独自に実施してきた事業が後退しないような配慮が必要。 ●診療所は、立地条件や勤務環境等から一般に医師等の確保が困難であるが、事業統一によって医療従事者の採用一元化による医療資源の適正配置(勤務ローテーション)や診療応援体制の構築が可能となるので、今後の積極的な取組みに期待する。
総合水沢病院の建替え検討 (プランP18)	総合水沢病院の施設は、旧精神病棟が築後45年、検査・手術棟は築後44年が経ち、法定耐用年数(39年)を経過し、昭和58年に建設された本館も築後30年を超え、配管等の設備は建物と同様に建築当時のままであるため経年による劣化が否めない状況にあり、部分的な修繕を行なうにも多額の費用が見込まれることから、抜本的な建替えを検討する時期にあると考えます。 このことから、医療需要や経営(財政)状況の変化など今後の動向を見据えながら、新病院建設にかかる準備を進めます。	●平成27年4月の医療局設置後、病院建設にかかる基礎的な調査を開始し、先に建設準備を進めていた2病院(八幡平市西根病院、北上済生会病院)を視察した。 ●平成27年8月に新市立病院建設検討委員会を設置し、同年9月に第1回の委員会を開催。建設スケジュール案、概算費用等について検討を行った。 ●平成28年3月に改訂版として策定した改革プランにおいて、平成28年度内に(仮称)新市立病院建設準備室を設置し、新病院建設にかかる準備を進めると記した。	●建替え計画に当たっては、地域医療構想や地域包括ケアの実現に向け、奥州市だけではなく、胆江医療圏、場合によっては隣接する医療圏を含む広域な地域の中での役割分担、機能分化の検討が必要であり、3師会や医療、介護、福祉に関する関係機関等との間で、より密接な連携、調整が必要と思われる。 ●新公立病院改革プランは、逐次、地域医療構想との整合性を確保するためにブラッシュアップすることが求められている。したがって、新病院建設は、そのような新公立病院改革ガイドラインにおいて、病床機能のあり方を始めた地域医療構想との整合性が確保されていることが条件とされている。この点を明確にしておく必要がある。 ●建替え検討に当たっては、改革プランに定める「新市立病院建設にかかる基本的考え方」に則り、県、医師会等の関係者との協議、市の財政負担の少ない整備手法の検討等を行うとともに、住民の理解に努められたい。

II 医療局全般にかかる運営評価委員会での意見等

●奥州市の医師奨学金制度については、県や他の地域との差別化を図ることで、活用の促進と確実な義務履行に繋げていただければと考える。また、看護師の確保については、他の自治体と同じレベルでの奨学金制度の検討も必要と考える。 ●看護師は学校卒業時には首都圏に就職される人数が多いが、数年で岩手に戻る方も多いと聞く。そのような方にコンタクトを取る方策を検討してはどうか。 ●病院、診療所個々の経営状況等の点検・評価も大切であるが、まずは医療局全体を評価をしてから、次に各施設の評価をするという視点も必要。 ●経営が悪い自治体病院は、大概、市長部局が医療に無関心で病院に任せきりである。地域医療を確保するという観点は地域づくりそのものであり、市長部局も一緒にあって医療局と一致団結してやっていくことが大切。

施設名	総合水沢病院
-----	--------

■経営指標にかかる評価

	平成27年度 目標(A)	平成27年度 実績(B)	増減比較 (B/A)	達成度	取組状況と内部評価
医師数(人)	17	19	112%	A	内科の医師を1人確保できたことで19人体制となった。これによりプランの経営指標にかかる目標は概ね達成することが出来た。 しかし、患者数や収入の伸びによる職員の過重労働の危険性から、看護師を主とした職員の確保を図ったが、収入の伸びと比較して職員給与費の伸びが大きく、今後の課題となった。
入院患者数(人)	48,000	48,411	101%	A	
外来患者数(人)	91,090	88,952	98%	B	
入院診療単価(円)	35,522	35,904	101%	A	
外来診療単価(円)	8,114	9,323	115%	A	
病床利用率(%)	90.7	91.2	101%	A	
医業収支比率(%)	85.1	88.2	104%	A	
経常収支比率(%)	100.6	101.4	101%	A	
職員給与比率(%)	60.4	62.0	103%	B	
平均在院日数(日)	14.0	14.0	100%	A	

【達成度1】※職員給与比率及び平均在院日数以外の経営指標にかかる評価

A	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以上の場合
B	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%以上で100%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%未満の場合

【達成度2】※職員給与比率及び平均在院日数にかかる評価

A	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以下の場合
B	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%を超え110%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その達成率が110%以上の場合

■組織運営にかかる評価

	取組状況と内部評価
地域医療における各医療施設の役割	中核病院のみでは供給不足が生じる救急医療や急性期医療、また、地域の民間医療機関のみでは十分な供給が困難な亜急性期医療や回復期医療を提供する役割を果たした。 また、胆江医療圏で唯一の2類感染症の病床にかかる施設基準や療養環境の改善を図るため、感染症病棟の改修工事を行った。
地域の医療・福祉・介護施設との連携	医療連携室を中心として、中核病院の県立胆沢病院や地域の民間病院及び福祉施設等との連携を強化し、受入患者の増加を図った。 また、在宅医療事業の強化策として、平成28年4月の設置に向けて訪問看護をステーション化するための準備を進めた。
職員の意識改革、管理体制(人事、労務)及び組織体制など	運営状況の迅速な把握に努めると共に、全職員を対象とした経営状況説明会を実施し、病院の経営状況と目指すべき方向性を共有することで、問題点や課題に対し円滑な対応が出来るよう引き続き努めた。 また、今年度の医療局設置に伴い、各施設への人事交流を開始することで職員のスキルアップにも繋げた。

■総合評価

運営評価委員会による評価
●県立病院の負担軽減のために一定の役割を果たしている点を評価する。 ●地域の在宅医療や感染症対策の強化として訪問看護ステーションの設置や感染症病棟整備を実施した点を評価する。 ●医業収支比率などの経営指標は、平成26年度以降は低下傾向にあるものの、同規模病院の平均値を上回っており、病院の経営努力が窺える。 ●今後の病院運営方針決定に当たっては、医師会など地域の関係機関との連携をより強化していただきたい。 ●救急患者の受け入れについては、なるべく断らない体制の構築をお願いしたい。

■収支計画にかかる評価

1 収益的収支

単位：百万円

区分	年度	27年度			
		プラン	実績	増減	増減率
総収益 (A)		3,592	3,715	123	3%
医業収益 (B)		2,654	2,818	164	6%
入院収益		1,705	1,736	31	2%
外来収益		739	829	90	12%
その他医業収益		210	253	43	20%
医業外収益		560	519	-41	-7%
特別利益		378	378	0	0%
総費用 (C)		3,200	3,291	91	3%
医業費用 (D)		3,120	3,193	73	2%
給与費		1,754	1,886	132	8%
材料費		538	590	52	10%
経費		630	548	-82	-13%
減価償却費		173	154	-19	-11%
資産減耗費		15	6	-9	-60%
研究研修費		10	10	0	0%
医業外費用		75	96	21	28%
特別損失		5	1	-4	-80%
医業損益 (B-D)		-466	-376	90	-19%
純損益 (A-C)		392	424	32	8%
累積欠損金		1,889	1,557	-332	-18%

2 資本的収支

単位：百万円

資本的収入	28	33	5	18%
企業債	0	0	0	#DIV/0!
出資金	28	30	2	7%
国庫補助金	0	2	2	#DIV/0!
その他	0	0	0	#DIV/0!
資本的支出	434	437	3	1%
建設改良費	50	53	3	6%
企業債償還金	384	384	0	0%
その他	0	0	0	#DIV/0!

3 一般会計繰出金(再掲)

単位：百万円

収益的収支	1,039	990	-49	-5%
資本的収支	28	30	2	7%
合 計	1,067	1,020	-47	-4%

取組状況と内部評価

昨年度に引き続き、収入の確保や費用の削減に努めた結果、一般会計繰出金の計画額内においてプラスの純損益を計上し、併せて着実に累積欠損金の削減を図ることが出来た。
また、平成20年度に借入した公立病院特例債は、今年度末で償還を完済した。

施設名	まごころ病院
-----	--------

■経営指標にかかる評価

	平成27年度 目標(A)	平成27年度 実績(B)	増減比較 (B/A)	達成度	取組状況と内部評価
医師数(人)	9	9	100%	A	医師体制は、9名(内科医4名、外科医1名、整形外科医1名、歯科医師3名)で年度内の変動はなく、前次診療所の休診に伴う異動により看護師等増の体制で取り組んだ。 外来に係る実績については概ね目標を達成することが出来たが、取り扱う入院患者の症例が大きく変化したことを主たる要因として、入院に係る実績が目標に届かなかった。 医業収益の実績と職員給与費の執行額を基礎とする職員給与比率改善の検討が必要であると捉えている。
入院患者数(人)	15,500	14,524	94%	B	
外来患者数(人)	53,000	52,785	100%	A	
入院診療単価(円)	30,323	22,600	75%	C	
外来診療単価(円)	7,358	7,289	99%	B	
病床利用率(%)	88.5	82.7	93%	B	
医業収支比率(%)	93.7	80.0	85%	C	
経常収支比率(%)	100.1	95.4	95%	B	
職員給与比率(%)	64.0	73.7	115%	C	
平均在院日数(日)	21.0	21.3	101%	B	

【達成度1】※職員給与比率及び平均在院日数以外の経営指標にかかる評価

A	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以上の場合
B	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%以上で100%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%未満の場合

【達成度2】※職員給与比率及び平均在院日数にかかる評価

A	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以下の場合
B	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%を超え110%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その達成率が110%以上の場合

■組織運営にかかる評価

	取組状況と内部評価
地域医療における各医療施設の役割	まごころ病院は、胆沢区における唯一の病院として、隣接する施設とともに胆沢区における医療・健康・福祉ゾーンで重要な役割を果たす一般病院(48床)であり、入院医療から外来医療そして在宅医療まで、総合的な医療の提供を行った。また、市立医療施設で唯一の「歯科口腔外科」を有し、一般歯科治療から病院歯科としての役割を果たした。
地域の医療・福祉・介護施設との連携	訪問診療及び訪問看護の推進はもとより、地域の医療・福祉・介護の各施設や、市保健センター及び地域包括支援センター等との連携強化を図った。 県立胆沢病院とは、大腿骨頸部骨折バスと脳梗塞バスを継続し、さらに、肝がん、乳がんのがん治療地域連携バスに加え、胃がん、大腸がん、肺がんについても参加し、急性期を過ぎた患者の治療について、機能分担する地域医療連携体制を維持した。
職員の意識改革、管理体制(人事、労務)及び組織体制など	平成27年度の市立病院・診療所改革プランの見直し着手に伴い、経営状況の経過、分析等を職員に周知し、意識改革に取り組んだ。また併せて、公金支出の適正化、職場環境及び業務改善の推進に努めた。

■総合評価

運営評価委員会による評価
●地域医療の充実、地域包括ケアの実現に向けて、県立病院や地域の関連施設等との連携を強化している点を評価する。 ●夜間外来や訪問診療等、地域住民、患者のニーズに応じた医療提供を実施している点を評価する。 ●病院歯科としての取り組みを評価する。 ●在宅医療に関して県内外より多大な評価をいただいている。

■収支計画にかかる評価

1 収益的収支

単位：百万円

区分	年度	27年度			
		プラン	実績	増減	増減率
総収益 (A)		1,109	1,073	-36	-3%
医業収益 (B)		1,003	860	-143	-14%
入院収益		470	328	-142	-30%
外来収益		390	385	-5	-1%
その他医業収益		143	147	4	3%
医業外収益		106	208	102	96%
特別利益		0	5	5	#DIV/0!
総費用 (C)		1,109	1,121	12	1%
医業費用 (D)		1,071	1,076	5	0%
給与費		680	685	5	1%
材料費		160	122	-38	-24%
経費		147	177	30	20%
減価償却費		80	87	7	9%
資産減耗費		2	3	1	50%
研究研修費		2	2	0	0%
医業外費用		38	45	7	18%
特別損失		0	0	0	#DIV/0!
医業損益 (B-D)		-68	-216	-148	218%
純損益 (A-C)		0	-48	-48	#DIV/0!
累積欠損金		0	3	3	#DIV/0!

2 資本的収支

単位：百万円

資本的収入	40	83	43	108%
企業債	0	0	0	#DIV/0!
出資金	40	47	7	18%
国庫補助金	0	36	36	#DIV/0!
その他	0	0	0	#DIV/0!
資本的支出	71	75	4	6%
建設改良費	10	14	4	40%
企業債償還金	61	61	0	0%
その他	0	0	0	#DIV/0!

3 一般会計繰出金(再掲)

単位：百万円

収益的収支	200	293	93	47%
資本的収支	40	47	7	18%
合 計	240	340	100	42%

取組状況と内部評価	医師数9名で年度内の変動はなく、前沢診療所の休診に伴う異動により看護師等を増やした体制で取り組んだ。 外来は概ね目標を達成することが出来たが、入院患者は、症例の変化を主たる要因として実績が目標に届かなかった。 100百万円の一般会計繰出金追加により純損失を圧縮した結果となった。
-----------	--

施設名	前沢診療所
-----	-------

■経営指標にかかる評価

	平成27年度 目標(A)	平成27年度 実績(B)	増減比較 (B/A)	達成度	取組状況と内部評価
医師数(人)	1	0	0%	—	診療所部門においては、平成26年度に引き続いて休止となった。 訪問看護部門は年間を通じて運営を行った。 上記の事情により、プランに掲げた経営指標は軒並み目標値を大きく下回る結果となった。 なお、医療局が主体となって常勤医師確保策を精力的に進めた結果、平成28年度から常勤医師が着任できる見通しとなった。
入院患者数(人)	4,192	0	0%	—	
外来患者数(人)	17,348	1,578	9%	C	
入院診療単価(円)	17,171	0	0%	—	
外来診療単価(円)	5,327	9,708	182%	A	
病床利用率(%)	60.4	0.0	0%	—	
職員給与比率(%)	94.2	189.9	202%	C	
平均在院日数(日)	36.1	0.0	0%	—	

【達成度1】※職員給与比率及び平均在院日数以外の経営指標にかかる評価

A	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以上の場合
B	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%以上で100%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%未満の場合

【達成度2】※職員給与比率及び平均在院日数にかかる評価

A	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以下の場合
B	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%を超え110%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その達成率が110%以上の場合

■組織運営にかかる評価

	取組状況と内部評価
地域医療における各医療施設の役割	前沢区を中心にして地域に密着した「かかりつけ医」として、平成27年4月に発足した医療局が主体となって新たな常勤医師確保に努めたが、年度内での再開はできなかった。 一方、訪問看護事業は年間を通じて実施し、在宅患者の療養生活を支援した。
地域の医療・福祉・介護施設との連携	診療所については、休止していたために、医療・福祉・介護施設との連携を図ることはできなかった。 訪問看護事業においては、ケアマネージャーや他の医療機関との連携を図りながら、在宅患者の療養生活を支援した。
職員の意識改革、管理体制(人事、労務)及び組織体制など	非常勤職員及び臨時的任用職員を含む勤務職員全員で運営会議を開催し、情報共有や諸課題に対する対策を協議して休止中の診療所運営に努めた。

■総合評価

運営評価委員会による評価
●常勤医師1名確保したことを評価する。 ●今後の運営方針決定に当たっては新任医師とよく協議して無理なく進めていただきたい。 ●前沢地域の在宅医療に対する支援や、心療内科などこれまで地域になかった分野の診療を評価する。

■収支計画にかかる評価

1 歳入

単位:百万円

区分	年度	27年度			
		プラン	実績	増減	増減率
診療収入		189	22	-167	-88%
入院収入		72	0	-72	-100%
外来収入		117	15	-102	-87%
その他診療収入		0	7	7	#DIV/0!
支出金		0	0	0	#DIV/0!
繰入金		178	172	-6	-3%
繰越金		0	0	0	#DIV/0!
その他の収入		27	37	10	37%
合 計		394	231	-163	-41%

2 歳出

単位:百万円

総務費			263	47	-216	-82%	
	施設管理費	一般管理費	人件費	221	47	-174	-79%
		その他	41	0	-41	-100%	
	研究研修費			1	0	-1	-100%
医業費			64	73	9	14%	
	医業費		53	73	20	38%	
	給食費		11	0	-11	-100%	
施設整備費			0	0	0	#DIV/0!	
公債費			67	52	-15	-22%	
その他の支出			0	21	21	#DIV/0!	
合 計			394	193	-201	-51%	
収支差引残			0	38	38	#DIV/0!	

3 一般会計繰出金(再掲)

単位:百万円

一般会計繰出金	178	172	-6	-3%
---------	-----	-----	----	-----

取組状況と内部評価

診療所部門においては、平成26年8月からの休止が継続となり、訪問看護部門のみの運営となった。
 これによって、プランに掲げた経営指標は軒並み目標値を大きく下回る結果となった。
 なお、医師確保策を精力的に進めた結果、平成28年度から常勤医師が着任できる見通しとなった。

施設名	衣川診療所
-----	-------

■経営指標にかかる評価

	平成27年度 目標(A)	平成27年度 実績(B)	増減比較 (B/A)	達成度	取組状況と内部評価
医師数(人)	2	2	100%	A	臨時の内科医師1名を継続雇用し、医師2名体制を維持した。 高齢化、交通弱者のため患者輸送車を継続運行し、延8,103名の患者を輸送した。
入院患者数(人)	1,700	1,592	94%	B	
外来患者数(人)	15,600	13,852	89%	C	
入院診療単価(円)	17,729	18,818	106%	A	
外来診療単価(円)	11,428	11,648	102%	A	
病床利用率(%)	24.5	22.9	93%	B	
職員給与比率(%)	75.7	88.3	117%	C	
平均在院日数(日)	15.0	14.6	97%	B	

【達成度1】※職員給与比率及び平均在院日数以外の経営指標にかかる評価

A	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以上の場合
B	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%以上で100%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%未満の場合

【達成度2】※職員給与比率及び平均在院日数にかかる評価

A	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以下の場合
B	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%を超え110%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その達成率が110%以上の場合

■組織運営にかかる評価

	取組状況と内部評価
地域医療における各医療施設の役割	かかりつけ医的な機能を持つべき診療所として、患者の初期症状等を的確に把握して適切な指示や緊急に必要な処置を行う一次医療の役割を担っている。また、県立胆沢病院から臨床研修医3名を受け入れ、地域医療研修に協力した。 機能分担により、急性期の患者は、救急指定医療機関である県立病院との連携により、受け入れをお願いした。
地域の医療・福祉・介護施設との連携	人員不足時には、市立病院からの内科医師や放射線技師の派遣応援をもらったほか、市立病院に臨床検査技師、理学療法士、作業療法士を派遣した。また、社会福祉施設にも理学療法士を派遣した。 隣接する特別養護老人ホームでは週1回の回診を行い、区内患者宅には2週に1回の訪問診療を継続した。
職員の意識改革、管理体制(人事、労務)及び組織体制など	医師2名(正職1、臨時1)、看護師11名(正職10、嘱託1)、医療技師等6名、事務局3名(正職1、臨時1、嘱託1)、委託医事3名、臨時運転手2名の27人体制。 医療局が設置され統合された。

■総合評価

運営評価委員会による評価
●医療資源が乏しい衣川区において一次医療を提供されている点を評価する。 ●地域の関連施設との連携推進を評価する。

■収支計画にかかる評価

1 歳入

単位:百万円

区分	年度	27年度			
		プラン	実績	増減	増減率
診療収入		210	211	1	0%
入院収入		30	30	0	0%
外来収入		178	161	-17	-10%
その他診療収入		2	20	18	900%
支出金		5	8	3	60%
繰入金		145	180	35	24%
繰越金		3	0	-3	-100%
その他の収入		16	15	-1	-6%
合 計		379	414	35	9%

2 歳出

単位:百万円

総務費			218	202	-16	-7%
	施設管理費	人件費	183	202	19	10%
	一般管理費	その他	35	0	-35	-100%
	研究研修費		0	0	0	#DIV/0!
医業費			119	158	39	33%
	医業費		115	158	43	37%
	給食費		4	0	-4	-100%
施設整備費			10	15	5	50%
公債費			27	24	-3	-11%
その他の支出			0	26	26	#DIV/0!
合 計			374	425	51	14%
収支差引残			5	-11	-16	-320%

3 一般会計繰出金(再掲)

単位:百万円

一般会計繰出金	140	180	40	29%
---------	-----	-----	----	-----

取組状況と内部評価

臨時の内科医師1名を継続雇用し、医師2名体制を維持した。
 前沢診療所から看護師1名と臨床検査技師1名を受け入れ病棟と検査業務を充実させた。
 高齢化、交通弱者のため患者輸送車を継続運行し、延8,103名の患者を輸送した。
 外来患者数13,852人、入院患者数1,592人

施設名	衣川歯科診療所
-----	---------

■経営指標にかかる評価

	平成27年度 目標(A)	平成27年度 実績(B)	増減比較 (B÷A)	達成度	取組状況と内部評価
医師数(人)	1	1	100%	A	歯科予防活動としてPMTC、障害者の摂食嚥下治療を継続して取り組んだほか、夜間診療を月3回、土曜診療を月1回実施し、利用者の利便を図った。
入院患者数(人)	-	-	-	-	
外来患者数(人)	7,300	7,211	99%	B	
入院診療単価(円)	-	-	-	-	
外来診療単価(円)	7,260	6,934	96%	B	
病床利用率(%)	-	-	-	-	
職員給与比率(%)	109.0	107.0	98%	A	
平均在院日数(日)	-	-	-	-	

【達成度1】※職員給与比率及び平均在院日数以外の経営指標にかかる評価

A	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以上の場合
B	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%以上で100%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その達成率が90%未満の場合

【達成度2】※職員給与比率及び平均在院日数にかかる評価

A	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%以下の場合
B	目標値と実績値を比較し、その達成率が100%を超え110%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その達成率が110%以上の場合

■組織運営にかかる評価

	取組状況と内部評価
地域医療における各医療施設の役割	成人歯科健診など住民の予防活動から、幼児の歯科指導や児童生徒の歯磨き指導、虫歯予防運動を地域や学校等と連携して推進した。 岩手医科大学歯学部から臨床研修医5名、地域医療体験実習生8人、高次臨床実習生1名を受け入れ、地域医療研修に協力した。
地域の医療・福祉・介護施設との連携	市から元気応援教室、乳幼児集団健康診査、2歳6か月歯科健康診査、成人歯科健康診査、岩手県歯科医師会から後期高齢者歯科健康診査を受託し、市民の歯科保健を推進した。 毎月、胆沢病院のNST(栄養サポートチーム)回診に参加し、摂食嚥下分野をサポートした。
職員の意識改革、管理体制(人事、労務)及び組織体制など	歯科医師1名に対し歯科技工士2名体制を維持し、義歯利用者へのサービス向上を図った。 歯科衛生士4名(正職3名、臨時1名)、事務1名(臨時)のほか、衣川診療所の事務3名(正職1名、臨時2名)の兼務により、人件費の削減と医科との連携を図った。

■総合評価

運営評価委員会による評価
●医療資源が乏しい衣川区における歯科医療提供を評価する。 ●夜間診療、土曜診療など利用者の利便性を考慮した運営を評価する。 ●医師会や県立病院等、関連機関との事業連携、参加を評価する。

■収支計画にかかる評価

1 歳入

単位:百万円

区分	年度	27年度			
		プラン	実績	増減	増減率
診療収入		53	59	6	11%
入院収入		0	0	0	#DIV/0!
外来収入		53	50	-3	-6%
その他診療収入		0	9	9	#DIV/0!
支出金		1	0	-1	-100%
繰入金		36	45	9	25%
繰越金		1	0	-1	-100%
その他の収入		4	3	-1	-25%
合 計		95	107	12	13%

2 歳出

単位:百万円

				74	69	-5	-7%
総務費	施設管理費	一般管理費	人件費	68	69	1	1%
			その他	6	0	-6	-100%
	研究研修費			0	0	0	#DIV/0!
	医業費				8	20	12
医業費			8	20	12	150%	
給食費			0	0	0	#DIV/0!	
施設整備費				2	2	0	0%
公債費				10	9	-1	-10%
その他の支出				0	7	7	#DIV/0!
合 計				94	107	13	14%
収支差引残				1	0	-1	-100%

3 一般会計繰出金(再掲)

単位:百万円

一般会計繰出金	32	45	13	41%
---------	----	----	----	-----

取組状況と内部評価

歯科予防活動としてPMTGに取り組んだほか、夜間診療を月3回、土曜診療を月1回実施し、利用者の利便を図った。
診療日数243.5日、患者数7,211人